

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	社内研修にて全社員必須受講となっている。また業務の中で困ったり迷ったりした際には、理念に振り返って考え行動するようにしている。	「自分が住みたいホーム、自分の家族を住ませたいホーム」との理念を掲げ、全職員の社内研修時の必須受講となっています。職員は業務中の困難時には常に理念に振り返り、適切な行動につなげています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会会員として、年2回の清掃活動はご利用者様と参加している。また近隣の小・中学校の実習を受け入れる事で幅広い世代の住民と交流をもっている。	近隣の小中学校生徒の実習を受入れ、世代を超えた交流や、町内の清掃活動への参加、町内コーラスグループとのつながりなど地域に根付いた活動をしています。また、地域のかけこみ場所として協力をしています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	行政主体の認知症徘徊模擬訓練に指南役としてご協力参加している。また【まちかど案内所】事業所として地域の相談窓口も担っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	地域包括支援センター、在宅支援センターを始め町会関係者や近隣の他事業者様にもご参加いただき、専門的な介護のアドバイスを頂戴する事もある。	2か月に一度の運営会議を実施しています。この中で、地域包括センターと在宅支援センターの担当者に、利用者家族への対応の問題にアドバイスをもらい、解決するなど会議を適切に活かしています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	一番身近な包括支援センターとは入居相談を始め運営推進会議の場でサービスの相談に乗っていただくなどのご協力をいただき、逆に認知症関連の催し物等ではご協力させていただいている。	船橋市開催の「認知症高齢者徘徊模擬訓練」において、認知症の方と接する際のポイントを指南役としてレクチャーするなど、市との良好な相互の協力関係を作っています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修にて全社員年二回の受講が必須となっており、全体会議の中でも定期的に話し合いの時間を設け、全員で意識するよう心掛けている。	年2回の社内研修、全体会議での話し合いを実施して職員の正しい理解を図っています。部屋の鍵はなく、玄関は防犯上、夜8時から施錠していますが朝7時から解除して、身体拘束の防止を実践しています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修にて全社員必須受講となっている。日々の支援の中でご利用者様の変化には特に注意し、異常は早期発見、情報共有に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	社内研修にて学ぶ機会を設けると共に、お付き合いのある後見人・司法書士等と情報交換に努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書及び重要事項説明書の読み合わせを行い、不明点等は現場で質疑応答をしている。またいつでもお問い合わせいただける体制を取っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご来所の際には、ご要望等をお伺いするよう心掛けている。またご意見BOXを常設し、匿名でご意見を頂けるようになっている。	ご意見BOXを常設し、ご意見を積極的に取り入れる努力をしています。利用者家族から、利用者の慣れ親しんだスタッフの定着を要望され、これを全職員に伝え、そういう家族の心境をそれぞれが理解しようとの認識を共有しました。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	就業中や全体会議で意見を徴収し、必要に応じて周知・共有している。代表者は最低年1回の面談を実施、要望に応じて機会を設けている。	代表者は年1回の面談の他、就業中や、会議での意見は連絡ノートを活用し、職員で共有しています。最近の事例では現場の整理、整頓の徹底を提案され、改善した結果、衛生面、業務遂行の向上につなげました	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年一回の面談を実施すると共に、本部の役員がこまめに事業所のスタッフの意見を直に聞いて、現状の把握／改善に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の階層別に研修を実施し、個々の能力に応じた研修・実践を可能とし、レベルアップをめざしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市内のグループホームで構成されている連絡会の役員となっており、他事業者や異業種との交流・連携に努め、情報交換等からサービスに繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	出来るだけ会話する機会を持ち、動作や行動からもご本人の気持ちをくみ取るように心掛け、安心出来るような関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談時に丁寧にお話を伺い、ご家族が困っている事とご本人が困っている事の整理を一緒に行い、ご家族様の役割、ホームの役割を話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族からの訴えだけでなく、様々な情報からも支援の方向性を推測し、柔軟な対応を心掛けている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	得意な事で活躍していただきお礼を言う場面を出来るだけ設けている。また、職員の相談に乗っていただいたり、お互いの信頼関係が築けるよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との連絡を密に行い(電話・メール)、相互の確認、了承の元、報告も行い、ご本人の希望も踏まえ、一緒に支援を行えるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	年末年始やお盆などご家族と一緒に過ごす方の外泊や面会への訪問に関しては制限を設けず、いつでも可能としている。また、月一回、馴染みの美容室へ行く事も継続している。	年末年始、お盆などの外泊や面会者の受入れが自由に出来るよう、支援をしています。また、近所のパン屋のイトインで食べる事や、日頃、コンビニやスーパー、肉屋の買い物で利用者の日常生活を支援しています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常生活の中で、関係性をみながら過ごす場所や一緒に出来る事を見極め、ご利用者様同士の関係作りに努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約修了後の問合せや相談、入居時の状況確認は保管されている記録を基に対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で常に職員は関わりを持ち、会話や行動の中から意向をくみ取り、内容は記録し共有している。また困難な際は、以前の暮らしやご家族様からヒントを得ている。	スタッフは利用者各人に目を配り、表情や会話や行動から1人1人の意向をくみ取り、記録し、職員間で共有しています。コミュニケーションが取りにくい利用者は家族から以前の暮らし等の情報を聞き対応しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の情報やアセスメント、ご本人、ご家族から、これまでの暮らしを把握するよう努めている。また介護サービスを利用されていた場合は、担当から情報を提供していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	各ご利用者様の生活リズムや習慣の違いを把握し、その方なりの過ごし方を大事にしている。またADLの変化には適宜対応出来る様、状態観察に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人がどう暮らしていきたいかを念頭に、パーソンセンターケアの視点で関係者からも意見を徴収し、立場の違いも視野に入れた計画書作成に努めている。	介護計画は利用者本位を心掛け、関係者など多方面から意見を聞き作成しています。見直しは3か月、6か月ごと定期的に行うほか、介護保険の更新時、病院への入退院時や体調の変化時と細かく実施しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	些細な事でも、口頭や紙媒体の申し送りを始め、電子媒体に記録し共有に努め、サービスへ反映するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人やご家族構成、個々の事情を汲み取り、ホームでご協力出来る事は、ご相談いただいた上で出来るだけ応じられるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	訪問していただける診療や理美容・ボランティアを始め、町内会での行事や、商店への買い物など当たり前の暮らしが送れるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時に事業所提携の医療機関をご案内させていただいているが、ご本人、ご家族のご希望があれば馴染みの医療機関に継続して通院して頂く事もできる。	提携医の診療は、内科が週2回、皮膚科精神科は月1回、歯科は週1回の割合で、殆どの利用者が受診しています。かかりつけ医の受診は1名で、家族が対応していますが、送迎、付き添いは相談に応じています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週一回の勤務時には、申し送りで状況把握に努め、必要があれば医療職と連携し対応している。また電話での相談は24時間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護サマリーを用いてご利用者様の状況を出来るだけ詳細に伝え安心した入院生活が送れるよう努めている。また早期退院を目指してお見舞いは密に伺い、病院関係者とも話合う時間を作っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時には必ず、重度化／看取りに関する事業所の指針をご説明し同意を頂いている。適宜終末期のご意向を伺いながら、医療職とも連携を図り、必要な際には関係者で話し合い、看取り介護へ移行している。	入居時に重度化、看取りについて事業所の指針を説明し、それぞれ同意書を受領し保管してあります。程度が進んだ場合、家族の意向をきき、医療職や関係者と話し合い、看取り介護に移行しています。直近1年間で2名の看取り例がありました。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年事業所内にて、消防署による心配蘇生法、AED使用法について講習をしていただいている。またマニュアルは所定場所に設置し、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練ではご利用者様へ事前告知をせずに行い、実践に近い形式で行っている。また地域住民とは協力し合えるように、日々の関係作りも大事にしている。	年2回の避難訓練は実践に近いように利用者に事前告知をせず実施しています。消防署から必ずアドバイスを受け、その記録は保管してあります。地域住民に対しては日頃の挨拶を始め、地区の相談窓口を担ったりして日々の関係作りをしています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	個々の生活歴や生活リズムの制約はせず、就寝、起床時間や入浴時間にも制限を設けていない。また、声掛けでは何事も受容を心掛け、ご本人が納得できるよう配慮している。	個人の尊重やプライバシーを確保するという立場から個々の生活歴や生活のリズムを制約をしないこととし、就寝、起床、入浴等の時間も制限を設けていません。声かけも本人の反応は何事も受け入れるよう心がけ本人が納得するように支援しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に伝えられやすいように、様子を確認したり、変化が認められる時にはコミュニケーションを多くするよう心掛けている。その中で、希望や自己決定可能な選択肢を提示している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	スケジュールや決まった時間に行う事は決めておらず、各自、思い思いに過ごして頂いており、共有スペース、自室は自由に行き来してもらっている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容では、主に男性は髭剃り、女性は整髪に気を遣っている。また個々の趣味嗜好を把握し、その方らしさを保てるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物から調理、配膳、片付けと食事に関する一連の動作の中で、其々出来る所で活躍していただいている。また食材では、季節のものを取り入れるよう努めている。	食材の調達から食事までの中、利用者が出来る部分はすべて関わってもらっています。正月、七夕、Xマスなど季節毎の行事食は利用者の好みに応えて提供し喜ばれています。外食も楽しんでいきます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ご利用者様の三食毎の食事／水分量を始め、間食も記録し、一日でのトータル量も把握しながら、不足しない様に留意している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	出来る方はご自身で、難しい方は介助で歯磨きを行っている。また月に一回、歯科医から口腔ケアに関する助言をいただき活用している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	全介助の方でも、日中はトイレにて排泄していただく事を徹底している。また記録統計から排泄のタイミングを図り、出来るだけ排泄用具を使用しない事を目指している。	全ての利用者が日中は排泄用具を使用しないで、トイレでの排泄が出来るよう支援しています。その結果、記録や行動から排泄のタイミングが見極められ、トイレ誘導ができた例があります。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行を始めとし身体を動かす、食物繊維の多い食い品を取り入れる、排便のタイミングを把握するなど、出来るだけ自然排便を促すよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	基本的に週2回以上の入浴を促しているが、夜間以外は常に浴槽の湯は沸かしてあり、タイミングで入りたい時、入れる時を逃さない様にし、気持ち良く入浴していただけるよう努めている。	週2回以上入浴できる体制をとっています。個々の入浴は、時間を決めずに入りたい時、また入れるタイミングを捉え気持ち良く入浴できるように支援しています。浴槽は、夜間以外は常時沸かしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自室では夜間は勿論のこと、お昼寝でも兼ねせず出来る様、ご自由にしていただいている。また人恋しい方はリビングのソファでお昼寝されている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬については特に医療職、薬剤師、看護職との連携を密にし、状況把握、報告を行い、適正であるかを常に確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	事業所をご利用者様お一人ひとりの家と捉え、生活の中で活躍できたり協働出来る事を見つけ出し、充実した暮らしを提供している。今年度は、農作物の経験者で畑を作っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	病院受診、買い物や散歩などの外出は、状況に応じて臨機応変に対応している。また、ご家族様とのお出掛けもスムーズに実現できる様、事前に確認・準備にご協力している。	日常的な外出は、散歩だけでなく病院受診、買い物など様々な状況に対応できるよう支援しています。その他、家族と出かけることもあり、その場合は事前に連絡をとってその準備に協力しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様とご相談の上で、現金を自己管理されている方も居るが、管理が難しい方は、代行で預り必要時に使用していただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ホームにご家族様から電話が掛かってきた際には、出来るだけご本人とお話しされるようお勧めしている。またご希望があれば、電話をお貸している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、ご利用者様の馴染みの物だったり、興味を持つような物を飾る事で、話題のきっかけになるよう配慮している。また季節を感じられる様な空間作りに努めている。	共用空間は日中、利用者が過ごす時間が長いことから話題のきっかけが持てるよう、馴染みの物や興味を持てる物を飾るように配慮しています。また、季節を感じられるよう利用者が手作りした鯉のぼり(紙細工)やうちわを飾ったりしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	イス席は厳格には決めておらず、その日その時で柔軟に対応出来るようにしている。またソファ席も自由に使えるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分の物や使い慣れた物を出来るだけ持ち込んでいただき、ご自身が安心出来るようにしている。また状態の変化で模様替えが必要な際は、安全に配慮しながらも心地良さを大事に考えている。	利用者が安心して過ごせるよう自分の物や使い慣れた馴染みの物を出来るだけ持参するように支援しています。持ちこんでいる物や量は様々です。模様替えの際も安全性と心地良さを考慮して対応しています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用者様の目線での掲示物など、暮らしている方々にとって住みやすい建物作りに努めている。		